

三河のつばやき

先日、千葉県薬剤師会の主催する地域医療連携講演会に講師の一人として参加しました。「地域医療連携」という言葉を聞いた時、多くの方が思い浮かべるのは「スムーズな病診連携、医療機関の役割分担」のようです。私はこの講演会で、「様々な大きさのフィールドにおける改善できることを、地域性を良く知っている人々で相談し、解決を図ること」と説明しました。フィールドを国や県レベルで考えると上記になるのですが、町レベルまで小さくするとより身近な住民の生活に直結した内容になります。皆様からも「様々な視点・立場から見た連携のあり方」をご提示いただければと思います。



がん地域連携室 室長
三河 貴裕

あきらめない看護

緩和ケア認定看護師 千葉 恵子

9月から4回シリーズで安房地域緩和ケア看護勉強会を開催させていただきました。参加者の熱意に私ももっと勉強してお伝えしたい、という気持ちになりとてもいい時間を過ごすことができました。医師だけではなく、看護師も顔の見える連携をしていきたいと思っていましたので今回の勉強会でお会いできたことをきっかけにつながっていければと思います。

私はがん看護に携わるようになり、色々なことを日々学んでいます。そのなかで大切にしていることは「見方を変える」ことです。がん患者を見る時に当たり前のこともかもしれませんが、「死に逝く人」から「今を生き抜く人」へと見方を変えると、その人にとっての希望と生きることを支える意味が見え、看護の意義が感動を持って実感できることで私たちもエネルギーになり、看護の楽しさや学びにつながって行くのではないかと、思っております。また、看護師がその人の失っていく事柄や物に対してとらわれるのではなく、そのことから離れ、温存できるところ、成長できるところに焦点を当てることで、希望や目標を探し出すことにつながると思っています。がん看護専門看護師の田村氏が「人は最後まで成長できる」と信じていることと話していました。私はこの言葉を大切にしています。どのような状況であっても最後まで成長できると信じていること、そしてその患者さんに寄り添い続ける姿勢とそのプロセスが大切であると考えています。これからもプロセスが大切であることを忘れないようにしてケアを行っていくことをこれからもしていきたいと思っています。皆様と一緒に考えながら地域で過ごす方々をサポートさせていただく一人でありたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



安房地区での緩和ケア看護勉強会を開催しました

今年度初めて「安房地域の医療機関さまとの勉強会」を計画・実施し、緩和ケアについては25名が参加され、11/21に無事終了いたしました。参加者は経験年数もモチベーションも高い看護師さんが集まり、イキイキとそして、一言一言納得しながら講義を受けられておられました。

4回とも受講された19名に修了証をお渡し致しました。

アンケートでは、「症例を挙げてアセスメントできる講義を入れたほうが…」とか、「会場を館山と鴨川の間で」とか、「家族ケアの大切さを知った」とかささまざまなご意見を頂戴致しましたので、今後活かして参りたいと思います。

リンパマッサージの実習風景です



TOPICS

第4回緩和ケア基礎研修会のご案内

日程:2012年1月14日(土) - 研修課程A
15日(日) - 研修課程B
場所:亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホール
12月12日申込締切予定です

安房地域勉強会のご案内

【在宅での緩和ケア看護勉強会】
日時:2012年1月24日(火)18:45~20:00
場所:安房地域医療センター 12/12名
【化学療法患者の薬剤管理勉強会】
日時:2012年2月17日(金)18:45~20:00
場所:安房地域医療センター 1/16名

参加ご希望の方は前回お送りした申請書をご提出ください

有床診療所として



伊藤胃腸科クリニック
伊藤 孝子院長

安房地域の医療機関の皆様にはいつもお世話になっております。

私は、天津に生まれ、小学校6年まで鴨川で過ごしました。25年前父の跡を継ぎ、自分の患者さんを最後まで診たいと有床のクリニックを続けています。訪問診療も行っていますが、独居の方や介護者の都合で在宅療養が困難な方(老老介護をふくめて)が多数いらっしゃいます。介護施設もショートでもなかなか入れません。「何とかしなくては」と思い現在に至っています。有床診療所は、身近に存在し、かかりつけ医でもあり、病院に行くほど重症ではないが入院が必要な場合に、また病院への入院までの待機施設として、病院退院後の後方支援病床として、また在宅療養への準備や介護施設への待機施設として、さらには、癌などの終末期の入院施設として、専門の医療を始め幅広く地域の需要に柔軟に対応する事ができます。

今後団塊の世代が前期後期高齢者になっていきます。介護施設のさらなる充実が求められますが、地域医療を支える事にすこしでも役に立てたらと思っています。この連携に参加する事により亀田クリニックの小野沢先生に御宿の末期胃癌の患者さんの訪問診療、看取りをお願いする事ができました。家に帰れたご本人も家族の方も大変感謝されてました。ありがとうございました。

亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者: 亀田 信介
編集責任者: 唐鎌 房子
TEL: 04-7099-1261(内線7156)